



令和5年7月6日
第3号

酒田農業技術普及課
TEL 22-6521

7葉期になりました。生育は順調です！ 大型化する雑草は今のうちに抜き取りましょう！

I 生育は順調

播種の早晚により圃場間差はありますが、全般に生育は順調です。また、1回目の中耕培土も梅雨の晴れ間を見ながら平年よりもスムーズ行われました。引き続き速やかに**2回目の培土**に入り高品質大豆の安定多収を目指しましょう。また、右表を参考に、病虫害防除の適期判定に必要な開花期を把握しておいてください。開花期は圃場全体の40~50%の株が開花した時です。

【管内の品種別開花期(平年)】

品 種	開花期
エンレイ	7月28日頃
里のほほえみ	8月1日頃

II 培土期追肥の検討・実施

すでに6~7葉期に達している圃場もあり、**2回目の培土時期**を迎えています。これより遅れている圃場でも、6葉期になったら遅れずに培土を実施することが大切です。仕上げ培土なので、初生葉の付け根までゆっくり丁寧に土を盛るようにしてください。

また、生育量が十分でない圃場では、培土作業の直前に追肥を行うことが生育量増大に効果的です。排水不良が原因の場合は、**排水対策を徹底**した上で実施してください。

(例)「LPコート70」(緩効性)を20kg(N成分8kg)/10a、または「尿素」(速効性)を9kg(N成分4kg)/10a全面散布し、その後培土を実施します。

III 子実病虫害防除 (今年の1回目の防除適期は 8/20~30)

薬剤散布時期の判断には、開花期の把握が必要です。

「紫斑病」: 防除適期は開花後25~35日の間、薬剤は「莢」まで付着するよう丁寧に散布します。

「マメシクイガ」: 1回目を、8月25日頃に紫斑病と同時防除を実施すると効率的です。さらに、その10日後(9月5日頃)に2回目の防除を実施します。

対象病虫害	防除時期	
紫斑病	開花後25~35日頃	
マメシクイガ	①8月25日頃(産卵盛期)	②1回目の10日後



紫斑粒



マメシクイガ成虫



マメシクイガの被害莢・子実

IV アブラムシ類の吸汁害や食葉性害虫の被害

【吸汁性害虫】

ジャガイモヒゲナガアブラムシは、8月以降急激に増加することがあるので、注意して観察し、発生・被害が見られたら発生初期の被害が拡大する前に、薬剤を葉裏にもかかるよう丁寧に散布します。



ジャガイモヒゲナガアブラムシ

【食葉性害虫】

ハスモンヨトウは、幼虫の齢期が進むと防除効果が低下するため、若齢幼虫期に薬剤が葉裏までかかるようにいねいに散布します。その他にもツメクサガ、マメハンミョウなどは、初め圃場の一部分を集中的に食害する傾向があるので、発生を確認したら周囲に広がる前に部分的な薬剤散布を実施することも効果的です。



ハスモンヨトウの幼虫



ハスモンヨトウの被害葉



マメハンミョウ

V これからの雑草対策

タデ類、オナモミ、シロザ等の大型化する雑草は今のうちに抜き取りましょう。また、一部圃場に帰化アサガオ類の発生が見られます。圃場を見廻り、数が少ないうちに抜き取りましょう。特に、**実(種)が付く前に抜き取る**ことで、来年以降の発生を減らすことができます。除草剤を使用する場合はラベルの適用をよく読んで使用してください。湿害による根傷みや、高温(乾燥)が続く場合は薬害が発生する恐れがあります。



夏は熱中症に注意

- 作業は涼しい時間帯に
- 定期的に休憩を

定期的に水分と休憩を取りましょう

- 塩分と水分をこまめに補給
- 作業は涼しい服装で

